兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布

広畑政己・佐々木薫

県下南西部に於ける本種の採集記録は極めて少なく、れまでに、佐用町若州[2]、同町海内[1]、上月町久崎[5]3ヶ所が報告されているにすぎない。

藤岡(1975)によると、国内では普遍的ではあるが、海道から九州にかけて広く分布するようで、東北の城県から長野県にかけての地域には産地も多いようである。また、関東以北では平地にも分布するが、西なるにしたがって山地性の種となっている。

本県に於ても主として山地から本種が発見されてお、個体数も極めて少ない種でもあった。ところが、年山間部の平地からの採集記録も少ないながら聞くうになったことから、県下南西部に於ても、本種が地にまで広く分布しているのではないかという想定もとで、この度の調査となったわけである。

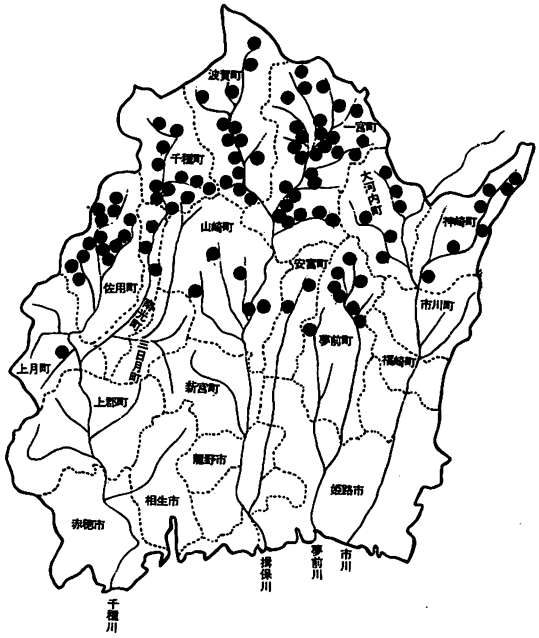
調査に当っては、筆者らと八木弘、川崎悟良、入江夫、尾崎勇、苦木隆幸、岩村巌の播磨蝶友会のメンバーと、近藤伸一、黒田収、相坂耕作、花岡正、木村郎、森下泰治の諸氏の御協力を得て、越冬幼虫を探すことから始めた。

調査の結果、96ヶ所の新産地を発見したが、その大が山間部の民家の庭に植えられたカエデの類から幼が見つかっており、山地の渓流沿のカエデ類から見かったのは、一宮町福知渓谷、同町草木、山崎町梯3ヶ所だけである。これは、山地には生息地が少なということではなく、民家の庭を中心に調査を行ったのでこのような結果になっている。

しかし、自然林が伐採され、カエデの類が残されてるようなところは稀で、この度の調査で発見された地の周辺の山は、そのほとんどが杉、桧の植林になているのが現状である。

宮脇(1977)によると、当地域での潜在植生は照葉樹域で、水辺にはハンノキ林、渓谷周辺にはイロハモジやケヤキの林があったとされている。それが、森の伐採、火入れ、開墾、道路建設など人為的影響にって自然植生が破壊され、アカマツ、コナラ、アベキなどの2次林と杉、桧などの植林に変遷しているである。このような自然植生の破壊にもかかわら、多くの生息地が残されているということは、本種庭木として重宝がられるカエデの類を食樹としていことが幸いしているようである。

ミスジチョウの分布概念図



生息地の状況を見ると、山間部でも山際の民家の庭のカエデ類からは多くの幼虫が見られるが、山からかなり離れた平坦地の庭からも少ないながら本種が見つかっている。そして、これらの平坦地は、県道や国道が走り、山地性の蝶の生息場所としては似つかない環境なのである。

カエデの類を食樹としている以上、本来本種の生息場所は、山地の渓流沿ということになるが、食樹の伐採によって生活の場を追われ、運よく民家のカエデ類に遭遇したものが、民家の庭伝いに分布を広げ、平坦地にまで生活の場を広げていったということではないだろうか。特に植林が進んでいる神崎町、山崎町などでは本来の生息場所であった山には食樹がなくなり、帰るあてもなく人里をさまよっているという感はあるが、山間部の民家やその周辺には、必ずと言ってよい程カエデ類が植えられており、薬剤散布さえ免かれれば食樹にはこと欠かない。この度の調査でも薬剤を散布したと思われる剪定した木からは本種は発見されなかったが、このような木は案外少なく、手入がされていない木の方が多い。また、付近には吸蜜できる条件も整っていると思われるので、生活の場としてはさほ

ど支障はきたさず、ホシミスジのように市街地にまで入り込むということもないとは言えない。

県下南西部に於ける本種の水平分布は、福崎町から山崎断層を通り、上月町にぬける中国縦貫道以北の地域で、それ以南では、上月町久崎の記録があるだけである。

中国縦貫道以南の地域で、三日月町添谷、上本郷、下本郷、弦谷と同町の志文川流域、新宮町奥小屋、角ヶ畠、牧、千本、上郡町富満、広根、夢前町の夢前川、菅生川流域の20数ヶ所の調査を行ったが幼虫を発見することはできなかった。また、中国縦貫道以北の市川町、福崎町、岡山県境に近い上月町からも幼虫は見つかっていない。

幼虫が多数発見されたのは、一宮町、波賀町、千種町、佐用町、大河内町などの北に位置する地域で、河川沿の集落を綿密に調査をすれば生息地は点々と連なるものと思われる。採集記録を生息地ごとに1例づつ上げると次の通りとなる。

〈採集記録〉

千種町下河野	幼虫1頭	20-II-1982	入江照夫
〃　七野	〃 7頭	〃	佐々木薫
〃　室	〃 6頭	〃	〃
〃　河呂	〃 1頭	〃	〃
〃　西河内	〃 2頭	〃	〃
〃　黒土	〃 7頭	〃	〃
〃　岩野辺	〃 4頭	〃	〃
〃　内ノ海	〃 1頭	〃	入江照夫
〃　鷹巣	〃 5頭	〃	〃
〃　荒尾	〃 2頭	〃	〃
佐用町若州	1♀	22-VI-1980注1)	広畑政己2)
〃　海内	1♂	11-VI-1961	岩村　巌1)
〃　桑野	幼虫3頭	11-II-1982	佐々木薫
〃　庵	〃 2頭	〃	〃
〃　鴨尾	〃 1頭	25-II-1982	〃
〃　下村	〃 2頭	〃	八木　弘
〃　桑村	〃 1頭	〃	佐々木薫
〃　奥海	〃 3頭	〃	〃
〃　下石井	〃 1頭	〃	〃
佐用町中ノ原	幼虫1頭	25-II-1982	佐々木薫
〃　水根	〃 1頭	〃	〃
〃　下石井	〃 1頭	〃	〃
〃　三山	〃 2頭	〃	〃
〃　中山	〃 1頭	〃	〃
〃　豊福	〃 3頭	〃	〃
佐用町平谷	幼虫1頭	25-II-1982	入江照夫
南光町船越	〃 1頭	31-I-1982	広畑政己
〃　川崎	〃 5頭	5-II-1982	佐々木薫
〃　三河	〃 1頭	〃	〃
上月町久崎	—	———	———5
山崎町梯	幼虫5頭	17-I-1982	佐々木薫
〃　五十波	〃 2頭	31-I-1982	〃
〃　塩田	〃 2頭	7-II-1982	〃
〃　上ノ	〃 1頭	1-II-1982	〃
〃　野々上	〃 2頭	18-II-1982	〃
〃　塩山	〃 2頭	11-II-1982	花岡　正
安富町鹿ヶ壺	1♂1♀	8-VIII-1981注2)	森　康行
〃　皆河	〃 2頭	7-II-1982	広畑政己
夢前町山之内坂根	幼虫6頭	〃	〃
〃　〃　吉田	〃 5頭	〃	〃
〃　〃　馬頭	〃 1頭	〃	〃
〃　〃　我孫子	〃 4頭	〃	〃
〃　〃　立船野	〃 2頭	〃	〃
〃　熊部	〃 1頭	〃	〃
〃　佐中	〃 1頭	〃	〃
〃　文殿	〃 1頭	〃	〃
神崎町新田	〃 2頭	21-II-1982	〃
〃　作畑	〃 1頭	〃	〃
〃　大畑	〃 1頭	〃	〃
〃　越知	〃 2頭	〃	〃
〃　岩屋	〃 1頭	〃	〃
〃　根宇野	〃 2頭	〃	〃
〃　福本	〃 1頭	〃	近藤伸一
大河内町川上	2♂	14-VI-1975	広畑政己
〃　長谷板屋	〃 2頭	6-II-1982	〃
〃　〃　本村	幼虫3頭	〃	川崎悟良
〃　南小田日和	〃 4頭	〃	広畑政己
〃　上小田小原	〃 2頭	〃	〃
〃　宮野	〃 3頭	〃	佐々木薫
一宮町福知	幼虫3頭	24-I-1982	広畑政己
〃　黒原	〃 3頭	〃	〃
〃　千町	〃 1頭	6-III-1982	佐々木薫
〃　下千町	〃 3頭	〃	〃
〃　草木	〃 1頭	〃	〃
〃　上岸田	〃 1頭	24-I-1982	広畑政己
〃　百千家満	〃 1頭	〃	〃
〃　下三方	〃 1頭	〃	黒田　収
〃　三方	〃 1頭	2-II-1982	佐々木薫

注1) 広畑(1980)で採集記録が1♀5-VI-1980となっているがこれは誤りで、正しくは前記の通りである。

注2) 鹿ヶ壺の採集記録は小学生の夏休みの作品展に品されたもので、木村三郎氏によって標本は確認さているがデータはラベルに記入されているものをそのまま引用している。

一宮町東河内	幼虫8頭	2－II－1982	佐々木薫
〃　上野田	〃 1頭	〃	〃
〃　下野田	〃 2頭	〃	入江照夫
〃　能倉	〃 3頭	〃	佐々木薫
〃　志倉	〃 1頭	7－III－1982	〃
〃　溝谷	1♂	10－VI－1976	尾崎　勇
〃　小原	幼虫1頭	21－II－1982	川崎悟良
〃　西公文	〃 2頭	〃	〃
〃　公文	〃 2頭	〃	佐々木薫
〃　森添	〃 3頭	〃	〃
〃　河原田	〃 3頭	〃	川崎悟良
〃　釜河内	〃 2頭	〃	佐々木薫
〃　高野	〃 1頭	〃	〃
〃　横山	〃 1頭	〃	入江照夫
〃　富土野	〃 2頭	〃	〃
〃　倉床	〃 2頭	〃	川崎悟良
〃　福野	〃 3頭	〃	佐々木薫
〃　西深	〃 1頭	〃	川崎悟良
〃　福中	〃 1頭	〃	入江照夫
〃　生栖	〃 1頭	〃	〃
〃　嵯峨山	〃 2頭	〃	川崎悟良
〃　安積	〃 1頭	〃	佐々木薫
波賀町赤西渓谷	2♂	10－VI－1980	黒田　収
〃　上小野	幼虫4頭	14－II－1982	〃
〃　安賀	〃 2頭	〃	〃
〃　原	〃 5頭	〃	相坂耕作
〃　水谷	〃 2頭	〃	〃
〃　音水	〃 2頭	〃	〃
〃　流田	〃 3頭	20－II－1982	入江照夫
〃　斉木	〃 5頭	〃	佐々木薫
〃　道谷	〃 2頭	23－II－1982	〃
〃　石亀	〃 1頭	〃	〃
〃　有賀	〃 1頭	〃	〃
〃　野尻	〃 1頭	〃	〃
〃　林殿	〃 1頭	〃	〃
〃　飯見	〃 1頭	〃	〃

以上104ヶ所の産地の内、上月町久崎、安富町鹿ヶ壺、一宮町溝谷以外は幼虫にて生息を確認している。

〈参考文献〉

)岩村　巌・中谷貴寿(1964)　西播の蝶分布資料(3)、兵庫生物4(5)：238
)広畑政己(1980)兵庫県に於ける蝶5種の新産地　てんとうむし(6)：30
)藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑、講談社、東京
)宮脇　昭(1977)日本の値生、学研、東京
)山本広一(1971)兵庫県の蝶相、月刊むし(3)：8

クロコノマチョウを相生市で採集

川　崎　悟　良

相生市に於てクロコノマチョウを採集しているので報告しておく。

採集したのは、1980年の7月末と10月中旬の2回で、夏型の♂は相生市三濃山の標高300m地点のクヌギ林の近辺で採集している。秋型の♀は、私が勤めている石川島播磨重工の作業場の薄暗い場所での採集で、作業所は前が海、後は山となっている。個体は新鮮なので裏山を調査したが、その後発見していない。

以前にも当地域で採集に失敗したり、目撃したりしているが正確なデータは記憶していない。

また、近隣の竜野市でも、1979年の10月に発見したが、ネットに入れたものの採り逃している。

何時かはこの蝶の発生場所をつきとめる日を楽しみにしている。

〈採集及び目撃記録〉

相生市三濃山	1♂	30—VII—1980	川崎悟良
〃　相生	1♀	17—X—1980	〃
龍野市龍野町日山	1ex	——X—1979(目)	〃

Goro Kawasaki　　〒678　相生市

チャバネセセリの越冬生態

広　畑　政　己

1980年12月7日に相生市天ヶ台において、本種の越冬生態を観察することができた。

越冬していたのは2令～3令と思われる幼虫で、幼虫はメリケンカルカヤやススキの葉を2枚～3枚綴り合せて巣をつくり、中に潜んでいた。

メルケンカルカヤやススキの葉は枯れていたが、その根元には5cm～10cm程のびた新しい芽があり、幼虫はその芽を綴って巣をつくっていた。

越冬していた場所は、食草が密生しているところは少なく、まばらに生えているような日当りの良い崖に多く見られた。

12月7日は気温も高く、平均気温が7℃、最高気温が14.5℃（姫路市の気温）もあったので、巣から離れている幼虫もあった。

室内で飼育をすると、冬期でも成長するので、このような暖かい日には越冬中でも巣から出て摂食するようである。

Masami Hirohata　　〒671-22 姫路市